

B01r 「すざく」衛星の現状と成果

満田和久 (宇宙航空研究開発機構)、他、すざくチーム

X線天文衛星「すざく」は、2005年7月10日に打ち上げられた日本の5番目のX線天文衛星である。初期運用中に観測装置の一つが機能停止になる問題が発生したが、残る2つの観測システム(X線CCDカメラ+X線望遠鏡、硬X線検出器)は予定された通りの、あるいはそれ以上の性能を発揮し、順調に観測を続けている。2006年4月からは、世界の研究者からの観測提案による公募観測が行われており、これまでに太陽系内の天体から100億光年遠方の活動銀河核まで、実に幅広い様々な階層の天体が観測されてきた。

観測データの解析に必要なソフトウェアならびに校正データは、「すざく」ソフトウェアチームとハードウェアチームによって整備され、世界中の研究者にインターネット経由で提供されている。また、解析に関する相談を受け付ける「すざく」ヘルプデスクも運用され、X線天文学を専門とする研究者でなくても、データ解析をスムーズに行えるような支援体制をとっている。

「すざく」衛星による科学的成果として、2年連続で出版されたPASJの『すざく』特集号掲載論文など、すでに200編を近い学術論文が、査読つき学術誌に発表されている。また、記者発表を行った成果も多数出ている。「すざく」の観測を通して、高エネルギー宇宙の描像がどんどん新しくなっている。

本講演では、「すざく」衛星の現状と成果について概観し、本特別セッションの導入と致します。